



広報 常陸大宮

2017
1
No.148

主な内容

- P2～3 新年のあいさつ
- P4～5 続・不動滝の上から
- P6 2016年十大ニュース
- P7～15 まちのできごと
- P16 茨城県民駅伝競走大会

赤ちゃんふれあい体験 (第三中学校)
【関連記事：P.7】

謹賀新年

二〇一七年

酉とり

2017年は酉年

今年の干支は「酉」です。干支とは、「十干」と「十二支」を組み合わせたもので、酉は十干にはなく十二支にはあります。ですから正確には「今年の十二支は酉」となります。

さて酉年の由来には、「果実が極限まで熟した状態」とあり、物事が頂点まで極まったと解釈されます。習い事や学問・商売などで成果が得られたり、商売繁盛に繋がったり、ご利益のある一年になるかもしれません。

また酉年の人の特徴として、「鋭い直観力と行動力・社交性が抜群」な半面、「本音を隠す、プライドが高く諦めるのが早い」などといわれています。長所も短所も併せ持つのが人間ですが、酉年生まれは、頭の回転が速く機転が利くというのが特徴のようです。

さて、今年はどんな一年になるでしょうか。



常陸大宮市長
三次 真一郎

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

また、日頃より市政全般にわたり多大なるご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、多くの皆様方の温かいご支援を賜り、引き続き3期目の市政を担わせていただくことになりました。その任に当たりますことは大変光栄ですが、課せられた使命と責任の重さに身が引き締まる思いです。今後も、市民の皆様の声に真摯に耳を傾けながら、これまでの経験を生かし、初心を忘れず、本市の発展のため全力を尽くしてまいる所存であります。

さて、昨年1月に国土交通省より重点道の駅に選定されました「道の駅常陸大宮かわプラザ」が、3月にオープンいたしました。お陰さまで、当初の計画を大きく上回る来場者で賑わっております。これからも、本市の魅力や情報を一元的に発信するシティーセールスの拠点とするとともに、地域の豊かな恵みを生かしながら、新たな特産品開発や農林業と商工業が連携した生産・加工・直販などの6次産業の育成を推進することで、地域に根ざした新たなしごとづくりにつなげてまいります。

また、本市のまちづくりの指針となります総合計画が平成28年度をもって目標年次を迎えることから、現在、次期総合計画の策定に取り組んでいるところであります。引き続き、皆様方のご理解とご協力を賜りながら、次期総合計画を策定し、魅力ある元気な常陸大宮を目指し、総合的、計画的にまちづくりを進めてまいります。そして、市民の一体感と満足度をより一層高めるため、引き続き努力してまいりますとともに、誰もが「住みたい、住み続けたい、住んでよかった」と実感できる県北西部の中核都市であり続けるため、全力で市政運営に当たってまいります。

市民の皆様には、どうか本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



常陸大宮市議会議員
高村 和郎

明けましておめでとうございます。

「何となく、今年はよい事あるごとし。元日の朝、晴れて風無し」という石川啄木の歌がありますが、皆様におかれましては、お揃いでお健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年の明るい話題では、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでの日本選手団の活躍や、大隅良典博士のノーベル賞受賞などがありました。反面、熊本地震や台風による洪水など、多くの自然災害が発生し、心の痛むことが多い年でもありました。人は安心しきると、安全への努力をやめるといわれますが、地域の安全を確保し、安心して暮らせることがまちづくりの基本でありますので、市議会としても関わりを持つ中で、安全のための施策の充実に努めてまいります。

本市では、昨年3月、地域活性化の拠点として、「道の駅常陸大宮かわプラザ」がオープンしました。オープン以来、大勢の来場者で賑わい、本市のシンボルとしての存在感を発揮しています。今後も、地域ブランド品の拡充や

新たな商品開発という課題と向き合いながら、情報発信並びに地域の核として、交流人口の集う場となる大型施設に成長してほしいと願っております。

合併して13年を迎える本市ですが、少子・高齢化や人口減少に対しましては、子どもを生み、育てやすい環境づくりや、年齢に関係なく、意欲や能力に応じて働ける場所の確保はもとより、あらゆる手段を講じる必要があるものと考えます。十分な少子化対策が必要なことはいうまでもありませんが、子ども達が社会の担い手となるには時間がかかります。また、生活の基盤となる公共交通については、様々な角度から検証し、効率的で効果的な移動手段となるべく、その整備・確立が求められます。

市議会といたしましては、執行部と連携を図りながら、二代表制の一翼を担うべく、議会が一丸となり、市政発展のため、その職責を全うすることをお誓いいたします。

結びに、自然豊かな、住んでいる人が暮らしやすいと感じる本市において、今年一年ともに手を携えて、健やかに過ごしたい、そんな思いを込めまして新年のご挨拶といたします。

ふ どう たき 続・不動滝の上から

たきのうえ 滝ノ上遺跡 第3・4次発掘調査報告

平成27年11月から平成28年3月にかけて、市内三美地区で道路等の整備に伴う滝ノ上遺跡の発掘調査が行われました。その成果がまとまりましたのでお知らせします。

那珂川に面している三美地区の滝ノ上遺跡は、平成25年から4年にわたって発掘調査が行われ、縄文時代から平安時代までの大規模な集落跡が確認されています。今回は、ほぼ同期間に滝ノ上遺跡に2つの調査区を定め、第3次と第4次の調査を行いました。

今回の調査では、土器が埋められた部分・石で囲われた部分・作業を行う広い部分の3つの構造を持った複式炉^{ふくしきろ}*が作られた住居跡が見つかりました。これは県内初の発見です。

さらに床が二段の構造を持つ市内最大級の住居跡からは、150個もの土器が発見されました。他にも大量の縄文土器が出土し、多数の住居跡が確認されるなど、当時の滝ノ上遺跡は多くの人々が集っていた特別な場所であったといえるでしょう。



▲出土状況



▲3つの構造を持つ炉



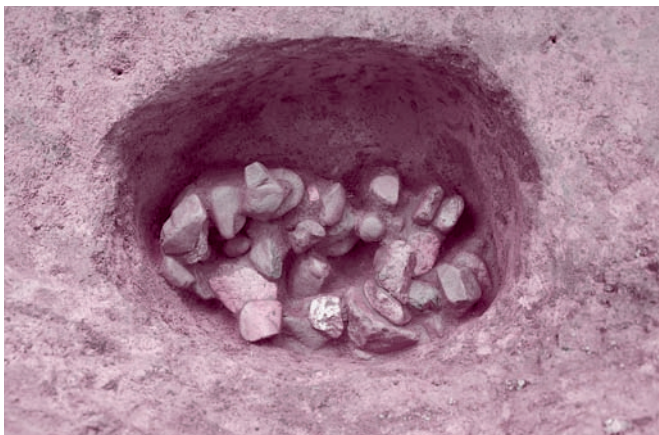
▲床が二段構造の住居跡

※ 炉とは、暖を取ったり湯を沸かしたり、煮炊きをしたりする場所のこと



▲出土したたくさんの土器

また、土器以外にも大量の石が出土していて、すぐ下にある那珂川の川原から集めていたと考えられます。まとまって出土した石類やその材質から、滝ノ上遺跡が石器を作るために必要な石材を集める場所であり、周辺の遺跡で発見された石器と比べると、近くの集落との関係が長い間続いていた様子をすることができます。



▲まとまって出土した石類

発掘作業の終盤には、周辺の住民を対象とした現地説明会が実施され、たくさんの人が参加しました。

滝ノ上遺跡の名は、「不動滝（別名：そうめん滝）」と呼ばれる滝の台地上に遺跡があることが由来となっています。はるか昔の人々も、この場所で那珂川を見ながら生活していたことでしょう。

今回の調査で出土した土器や石の一部は、平成29年2月7日から23日までの期間中、市役所本庁1階ロビーで展示します。この機会に、ぜひご覧ください。

今回の発掘調査ではたくさんの方々にご協力をいただき、大きな成果を得ることができました。これらは、私たちのふるさと常陸大宮市の成り立ちを知るための貴重な資料になります。ふるさとの歴史と文化を知り郷土愛を育むため、今後ともご理解とご協力をお願いします。



▲現地説明会の様子

■問い合わせ■ 歴史文化振興室 ☎52 - 1450

常陸大宮市2016年十大ニュース

2016年、本市の十大ニュースを市職員から募集し、93人から761件が集まりました。トップ10は以下のとおりです。

※毎年行われる行事は除き、市域内の出来事を対象としています。

なお、第5位と第7位は得票数が同じため、同順位となっています。

第1位

茨城県北芸術祭開催
(旧美和中学校などが会場に)
総来場者数は目標の2.5倍
(77万6千人)



第2位

道の駅常陸大宮かわプラザ開業
(いばらきデザインセレクション2016に選定)



第3位

3年ぶりに「西塩子の回り舞台」
開催 舞台復活20周年



第4位

三次市長 三期目スタート



第5位

市標の制定 活用開始



第5位

市特産品「常陸大宮さん」
認証制度がスタート
(32品目を認証)



第7位

常陸大宮大使
白石美帆さん結婚



第7位

連続テレビ小説
「ひよっこ」の舞台に
〔放送予定 2017.4.3～〕
〔NHK総合ほか〕

写真提供NHK



第9位

ウダーベ音楽祭
グッドデザイン賞受賞
「グッドデザイン・ベスト100」



第10位

地域おこし協力隊発足
活動開始



10/20
12/15

中学生が赤ちゃんとおふれあい体験

市総合保健福祉センターかがやきで、第二中学校の3年生が「赤ちゃんおふれあい体験」を行いました。これは、赤ちゃんとおふれあうことで、命の大切さや性の尊さを実感してもらうことを目的としています。また、おふれあい体験前の1学期には、市内若草幼稚園で園児との遊びをとoshita交流を行いました。

生徒たちは、受け付けを済ませた生後3・4か月の乳児と対面。赤ちゃんの計測や保健師との育児相談に付き添いました。順番を待っている間は、保護者から赤ちゃんがいる生活や子育てについて話を聞いたり、赤ちゃんをあやしたりしました。

まだ首がしっかりと座っていない赤ちゃんを、恐る恐る抱っこする姿は微笑ましく、肌の温もりを実感した様子でした。

体験した生徒からは、「赤ちゃんはとても可愛い。自分が小さい時はどんな様子だったのか知りたくなった」、「とても可愛らしく、守ってあげたいと思った」、「将来はイクメンになりたい」といった感想がありました。

第二中学校家庭科の先生は、「最近は小さい子と触れ合う機会が少なくなってきている。この体験をとoshite、子どもを育てる親の苦労なども知ってほしい」と話していました。



11/27

日野市（東京都）とスポーツ交流

市内少年軟式野球チーム（美和スタッピーズ・御前山ビクトリー・大賀ドリームス・大宮ライオンズ・上野ホワイトナイツ）の子どもたちが日野市を訪れ、親善試合と交流会を行いました。

日野市とは、平成17年から市民同士の交流を図っていて、今年は4試合の熱戦が繰り広げられました。



▲参加した子どもたち全員で記念撮影



▲「ひたマルシェ」で市をPR

交流事業では、初の取り組みとして「ひたマルシェ」を開催し、市の紹介やPRを行うとともに、特産品「柚子きれい」の試飲を実施。寒空の下で提供されるホット柚子きれいに心も身体も温まり、「常陸大宮市に行ったことがあるよ」、「特産品はどこで買えるの?」、「ふるさと納税をしたよ」などの会話も弾み、大変好評でした。

この日の交流では、両市の参加者約200人が親睦を深めることができました。今後もさらなる友好関係を築いていくとともに、様々な分野・競技で幅広い市民交流を図っていきます。

12/22

東京オリンピックに向けて

宮城県蔵王町で、「蔵王町・常陸大宮市東京オリパラ推進協議会」が設立されました。

本市と蔵王町は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に出場するパラオ共和国のホストタウンとして、ともに国の登録を受けました。

この日の協議会設立では、会長に蔵王町の村上町長、副会長には本市の三次市長が就任し、協議会の規約や事業計画、予算などが話し合われました。

今後は誘致の実現に向けて、両市町が連携して取り組んでいくとともに、パラオ共和国との国際交流や蔵王町との交流についても進めていく予定です。



▲がっちりと握手を交わした両市町長

12/11

多様な文化の交流

今回で7回目となる国際交流フェスティバル（主催：市国際交流協会）を、「祝い、ふれあい、文化のコラボ」と題して、おおみやコミュニティセンターで開催しました。

当日は晴天に恵まれ、市民と海外出身者（中国・ネパール・ポーランドなど）400人以上が来場。ステージ発表やお国自慢の料理などをとおして交流しました。

来場者からは、「七五三の着付けを見られて良かった」、「海外出身者と触れ合える貴重なイベントなので、ぜひ続けていってほしい」など、継続に期待する声もありました。



▲キレのあるダンスを披露する子どもたち

12/3

西の内紙でお年玉袋作っちゃいました!!

市特産の西の内紙（県指定無形文化財）を、身近に感じ普段の生活で使ってもらおうと、「お年玉袋づくり」を道の駅常陸大宮かわプラザで開催しました。これは、和紙文化展開プロジェクトチーム（菊池三千春代表）が、文化庁の補助事業として行っている「本場の『西の内紙』で作っちゃおう！」シリーズの第2弾。手作りのオリジナルポチ袋で、大切な人にお年玉をあげようと、15組23人が参加しました。

夏に実施した「うちわ作り」では、写真をプリントしたり絵を描いたりして、世界に一つのMyうちわを制作。今回は、カラフルな墨流し（マーブリング）やスタンプなどで、ステキなお年玉袋を完成させました。参加者は、偶然が作る色の流れを瞬時に吸い取り、濡れても全く破れない和紙の丈夫さに触れるなど、モノづくりの楽しさを満喫。「使うのがもったいなくなっちゃった」、「お年玉を子どもにあげたら袋は回収する」、「親へのお年玉に使おう」など、皆さん仕上がりに満足の様子でした。



▲どんな色のポチ袋にしようかな



▲モノ作りは楽しい!



▲完成したポチ袋

12/1

あなたも今日から認知症サポーター in 上野小学校

上野小学校主催の教育講演会で、5・6年の児童や保護者、地域住民が参加して、市認知症サポーターキャラバンメイトによる「認知症サポーター養成講座」が開催されました。

認知症を正しく理解し、地域の高齢者を見守る体制を作ろうと実施されていて、小学生を対象とした講座は市内では初めてです。



▲認知症サポーターキャラバンメイトによる講演と寸劇

講座では、スライドを使って「物忘れと認知症の違い」や「認知症の人の脳のしくみ」などを説明。その後の寸劇では、財布がないと騒いだり、退職したのに会社へ行くといい出したりする人への接し方や声のかけ方について学びました。児童からは「一番若い認知症患者は何歳ぐらいですか」、「認知症と記憶喪失の違いは」などの質問があり、認知症についての理解を深めました。また合間には、手を使った体操やクイズなどが行われ、楽しく分かりやすく学ぶことができましたようです。受講後は、サポーターの証であるオレンジリングが配られました。



▲予防の脳トレ体操にみんなでチャレンジ

12/3

山方宿駅前をライトアップ

J R水郡線山方宿駅から神奉地児童公園までの通りで、初めてのイベント「きらきらステーション～サンタの里からのプレゼント～」が開催されました。

この日は晴天で、午後4時半からのイルミネーション点灯式には、親子連れなど約1,000人が来場。用意した500個のキャンドルに点火し、会場を光で飾りました。またミニライブや模擬店の出店などもあり、子どもたちの笑顔があふれていました。

このイルミネーションは2月28日まで行われています。ぜひご覧ください。



▲光に彩られた山方宿駅前

12/1

日本林道協会会長賞受賞

平成28年度治山・林道コンクール（主催：日本林道協会）で、山方地域の林道グリーンライン照山線が、日本林道協会会長賞を受賞しました。これは、除草等の維持管理が評価されての受賞です。

照山線は、総延長6,090m・幅員5.0mの道路で、森林の整備や林業経営に欠かせない重要な役割を果たしています。今後も周辺環境に配慮しながら、林道の維持管理を行っていきます。



▲表彰式で賞状を手にする三次市長

12/4

人権について考える

人権週間（12月4～10日）にあわせて、「じんけんフェスタ in 常陸大宮」を、市文化センターで開催しました。フェスタでは、人権をテーマとした小学5・6年生対象の書道と小中学生対象の標語の入賞者に、表彰状が手渡されました。また、全国中学生人権作文コンテスト茨城県大会で入賞した作文を、市人権擁護委員が朗読しました。



▲受賞者と人権擁護委員の皆さん

最後は、市人権擁護委員の平島則子さんと本市出身ミュージシャン平島慎吾さんのバンド“Shingo Hirashima Group”による「音楽がつなぐ心」と題したライブ&トーク（朗読）に会場は盛り上がり、たくさんの拍手で幕を閉じました。



◀ライブ&トーク（朗読）の様子

12/2

地域福祉の向上に貢献～民生委員・児童委員に感謝状～

市の民生委員・児童委員の改選にあたり、市文化センターで感謝状の贈呈や委嘱状の交付が行われました。退任される委員で、厚生労働大臣表彰は6年以上、県知事表彰は3年以上在籍した方に贈られます。

この日表彰されたのは59人。市長から感謝状や記念品などが贈られ、前市連合民生委員児童委員協議会会長の梶文雄さんが、受賞者を代表して謝辞を述べました。

委員は厚生労働大臣の委嘱を受け、支援を必要とする地域住民の相談役や行政・関係機関とのパイプ役を担い、問題解決の援助などを行います。

*新しい委員は、広報常陸大宮12月号に掲載しています。

12/7
～21

第4回市議会定例会

平成28年第4回常陸大宮市議会定例会が、12月7日から21日まで開会されました。この定例会では、次の議案（市長提出議案）の審議が行われ、それぞれ同意及び可決されました。

条 例

- 常陸大宮市行政組織条例
- 常陸大宮市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例
- 常陸大宮市税条例の一部を改正する条例
- 常陸大宮市国民健康保険税条例の一部を改正する条例
- 常陸大宮市印鑑条例の一部を改正する条例
- 常陸大宮市長山景樹特別奨学金給付条例の一部を改正する条例

平成28年度補正予算

- 常陸大宮市一般会計補正予算・特別会計（6会計）補正予算

その他

- 相互救済事業の委託について
- 指定管理者の指定について
やまがたすこやかランド 三太の湯、ごぜんやま 温泉保養センター 四季彩館、美和ささの湯
- 市道路線の廃止について
- 教育委員会委員の任命について
星野 幸子
- 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
鈴木 泰全



▲感謝状が贈られた委員の皆さん

11/7 「ひよっこ」ロケに小瀬高生が参加

平成29年4月から放送されるNHK連続テレビ小説「ひよっこ」劇中でヒロインたちが走る聖火リレーシーンの撮影が、常陸太田市内で行われました。

ヒロイン谷田部みね子役の有村架純さんや、親友役の佐久間由衣さんが参加。本市からも小瀬高校生40人が聖火ランナーを応援する高校生役として参加しました。生徒たちは、沿道での旗振りや出演者の追走などを演じ、若い力で撮影を盛り上げました。



▲聖火リレーを応援する小瀬高校生たち

12/4 かがやきまつり

市総合保健福祉センターかがやきで、かがやきまつりが開催されました。

この日は天候に恵まれ、ふれあいステージでの芸能発表や模擬店の出店がありました。また、医師・薬剤師による歯科相談やお薬・禁煙相談などがあり、多くの人でにぎわいました。式典では、健康づくりの普及啓発に努めた方へ保健衛生功労者表彰が行われました。



▲ふれあいステージでダンスを披露

12/3 常陸大宮市のお宝を学ぼう ～第5回お宝発見事業～

第5回のお宝発見事業（主催：生涯学習課）を、40人が参加してパークアルカディアで実施しました。

はじめは化石採取を体験。ジオネット常陸大宮の皆さんに教わりながら、石を割って化石を見つけました。次はプラネタリウムを見学。ドーム状のスクリーンに映し出される映像を見ながら、星座について学びました。そして最後はパターゴルフを体験し、9ホールでスコアを競いました。

昼食はピザ作りに挑戦。自分で生地を伸ばしてトッピングをし、ドラム缶の窯で焼き上げたピザは、とても美味しくできたようです。

午後はウォークラリーを実施。ボランティアの茨城大学生と一緒に、クイズを解きながらパークアルカディア内を見学し、いろいろな遊具や施設があることを学びました。

参加者は、様々な体験ができるこの場所を知って、またひとつ本市の魅力を発見した様子でした。

参加者の声

- ・ パターゴルフをまたやってみたい
- ・ プラネタリウムで星のことが分かった
- ・ こんなに楽しいところを知ることができてよかった



▲どんな化石が見つかったかな？



▲パターゴルフに挑戦



▲ピザ作りでは好みの具をトッピング

12/11 常陸大宮吹奏楽団定期演奏会

市文化祭の一環として「第25回常陸大宮吹奏楽団定期演奏会」が開催されました。

今年は、市内全中学校や合唱団との共演のほか、大宮中出身でプロのアルトサキソフォン奏者の寺門正人さんを招待。吹奏楽団をバックに奏でるサックスの音色は、会場全体を魅了していました。来場者アンケートでは、「これからも演奏会を継続してほしい」、「吹奏楽団と共演できる後輩の中学生がうらやましい」等の声がありました。

今回は25回目の記念公演ということもあり、第1回からの演奏会ポスターやプログラム等の展示も行われました。



▲寺門正人さんと吹奏楽団の共演

12/18 和太鼓フェスティバル

今年度市文化祭最後の催しとなった「第3回和太鼓フェスティバル」が開催されました。

市文化協会に加盟している6つの団体と市内3つの保育園等が参加し、息の合ったバチさばきに、会場からたくさんの拍手が上がっていました。また今回は、民族歌舞団荒馬座代表の岡田仁先生を講師に迎え、演奏後には的確な助言をもらい、来年につながる発表会となったようです。

＜参加した保育園等＞

- ・ひまわり保育園
- ・緒川げんき保育園&げんき太鼓クラブ
- ・御前山認定子ども園



▲最後に合同演奏を披露

映画「ホームタウン」上映会 ー常陸大宮ムービープロダクションチームー

本市を舞台に、市内在住の高校生たちが制作した映画の第2弾「ホームタウン」の上映会が、11月12・13日にふれあいギャラリーで、また11月19・20日には、市文化祭の一環として、市文化センターで開催されました。彼らは映画をとおして、市の魅力や情報の発信、地域活性化を目的に活動しています。



▲ふれあいギャラリーでの上映会

出演／鯉淵翔太・野澤岳史・川又明・倉田稔之・平島則子
監督・脚本・編集／益子侑也
助監督／倉持広夢 制作進行／國分大樹
進行助手／大越一徳・菊池愛夏
撮影／益子侑也
撮影助手／佐々木涼我・生天目彪真・深町凌大
録音／河井孝太
スタイリスト／菅野聖 演技アドバイザー／金澤陽菜
原案／菊池一俊「かんとリーどーろ」
主題歌／日々かりめろ「home town」
作詞：菊池一俊 作曲：高田梢枝

ホーム
タウン
上映会



常陸大宮ムービープロダクションチーム

11月19日(土)・20日(日)

①10:30～②13:00～

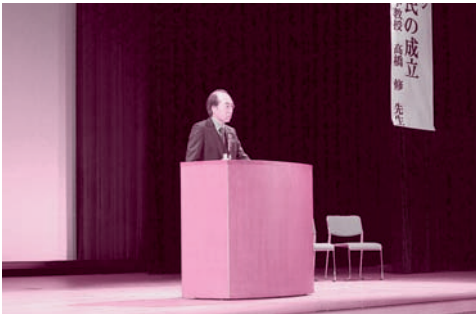
③14:30～④16:00～

※20日は2部まで

■問い合わせ■ 大宮公民館 ☎52-0673

12/10

第2回文書館カレッジ「常陸佐竹氏の成立」を開催



▲講演する茨城大学の髙橋先生

第2回文書館カレッジを、茨城大学人文学部教授の高橋修さんを講師に迎えて開催しました。

「シリーズ常陸大宮と佐竹氏その1」となる今回は、佐竹氏の祖となる源義光が都から常陸国へ本拠を移し、その孫昌義が佐竹郷に定着する過程のお話。高橋先生の史料を使った分かりやすい説明に、来場者は熱心に耳を傾けていました。地元でも人気の高い佐竹氏の講座とあって、200人を超える来場者でにぎわい、質疑応答でも熱心な議論が交わされました。

第3回は3月頃を予定しています。

11/26

青少年をたたえる市民のつどい

緒川総合センターで「第12回青少年をたたえる市民のつどい」が開催され、善行青少年や青少年の健全育成に尽力した個人や団体を表彰しました。また、少年の主張茨城県大会での発表者を含め、今回優秀賞を受賞した児童・生徒の作文発表が行われました。



▲作文発表をした児童・生徒

【青少年の主張作文入賞者】

賞	氏名	学校名
優秀賞	大瀧 圭佑	美和小
	大森 秀刃	大賀小
	木村 柊哉	大宮北小
	都竹裕次郎	御前山小
会長奨励賞	伊坂 美優	緒川小
	海老根寿音	上野小
	木村 芽生	山方小
	左近充海翔	大宮小
	篠田 上総	村田小
	藤田 亜美	山方南小
	箕輪 蒔希	大宮西小

【善行青少年表彰者】

区分	氏 名	
小学生	沢畑 壱心(大宮西小)	
中学生	安藤沙優里、安藤大翔、大越美波、田中麻奈美、濱野美咲(御前山中)	
高校生	青野 百花	五味渕奈摘
	内舘 遥菜	笹沼 風歌
	金田 雄樹	中崎 麗奈
	木村 亜海	平澤穂乃香

【青少年健全育成表彰団体】

支部	団体名
大宮	栄町環境美花クラブ
大宮	フロイデDAN

【青少年育成常陸大宮市民会議功労者】

支部	氏名
大賀	石川 拓男
玉川	野上 公之

賞	氏名	学校名
優秀賞	市野沢夏奈	第二中
	臼井 彩菜	第二中
	小口 結希	山方中
会長奨励賞	後藤 歩	明峰中
	小森 菜那	御前山中
	萩谷 咲紀	大宮中



スポーツ大会結果

第13回常陸大宮市剣道錬成大会

開催日：12月4日

主催：市剣道連盟（木村則義会長）

会場：西部総合公園体育館

参加人数：団体の部23団体、個人の部92人

【団体の部】

部 門	優 勝	準優勝	第3位	
小 学 生	御城館 A	御城館 B	御城館 C	美和剣道クラブ
中 学 生	御城館	大宮中学校 A	第二中学校 A	明峰中学校
高校・一般	常陸大宮市選抜	大宮尚武館 B	白雲会 A	御城館



▲高校・一般の部優勝 市選抜



▲中学生の部優勝 御城館



▲小学生の部優勝 御城館 A

【個人の部】

部 門	優 勝	準優勝	第3位	
小 学 4 年 以 下	野上 悠人 (上野剣道ク)	坏 知世 (御城館)	坏 拓末 (御城館)	高村 芽衣 (御城館)
小学5・6年男子	野上 晴杜 (御城館)	五十嵐陸音 (上野剣道ク)	上松 裕満 (玉川)	
小学5・6年女子	櫻井 瑞稀 (上野剣道ク)	猿田 莉子 (御城館)	木村 芽生 (御城館)	
中 学 男 子	船山 憂麻 (御城館)	小林 龍生 (大宮中)	桑名 璃夢 (明峰中)	大串 和也 (御城館)
中 学 女 子	直井 仁美 (御城館)	小森あすか (山方中)	菊地 桃子 (第二中)	高岡 茜里 (御城館)

【小学生初心者個人錬成の部】

優秀賞	小森 嘉恵 (上野剣道ク)	栗島 直輝 (上野剣道ク)	富山比羅夫 (正念館)
	花野 皓 (上野剣道ク)	花野 瑛 (上野剣道ク)	鈴木 蒼空 (正念館)

第23回ママさんバレーボール大会

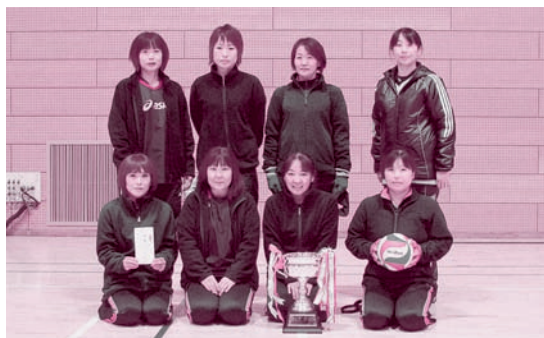
開催日：11月27日

主催：市バレーボール連盟（青木秀雄会長）

会場：西部総合公園体育館

優 勝：グルービー

準優勝：盛和球友クラブ



▲優勝したグルービー

第31回常陸大宮市ソフトバレーボール大会

開催日：12月9・16日
主催：市ソフトバレーボール連盟（堀江甫会長）
会場：西部総合公園体育館

優勝：LINES A 準優勝：美和ユニークス A
第3位：MIDORI 第4位：チーム山方



▲優勝したLINES A

第13回常陸大宮市近郊中学校バスケットボール大会

開催日：12月24・25日
主催：一般財団法人常陸大宮市体育協会
会場：西部総合公園体育館
参加チーム：男女各9チーム

【男子の部】

優勝：那珂市立瓜連中学校
準優勝：東海村立東海南中学校
第3位：常陸大宮市立第二中学校
敢闘賞：常陸太田市立金砂郷中学校

【女子の部】

優勝：那珂市立第四中学校
準優勝：東海村立東海南中学校
第3位：常陸大宮市立第二中学校
敢闘賞：城里町立常北中学校

地域おこし協力隊 No.9 がゆく

諸沢・北富田地区活性化担当の志賀です。
常陸大宮市に来てから、もうすぐ1年が過ぎようとしています。任期1年目は、地域活性化などの知識・経験の引き出しを増やす期間として、取材やイベントのお手伝いを中心に活動してきました。そして次に進むステップは、1年目に増やした引き出しを組み合わせ、地域に還元させていく事です。



▲久しぶりの餅つきでへっぴり腰の私（志賀隊員）と
おいでなんしょまつり



▲具だくさんの手打ちそばとお汁粉

12月4日に諸沢・北富田地区で行われた「おいでなんしょまつり」は、3年目を迎えました。1・2年目の目新しさがなくなる分、3年目はさらに興味を持ってもらえる企画でなければ、お客さんは集まりません。しかし、お客さんと主催者の両方が楽しめる企画は難しく、“何のためにおまつりをやるのか”と目的を考え直す必要性を感じました。

地域活性化において大切なのは、結果に捉われずにまずアクションを起こす事、そして継続させていく事だと考えています。任期2年目は、住民の皆さんと一緒に活動の幅を広げていきたいと思っています。

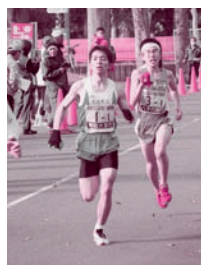
茨城県民駅伝競走大会で力走!!

12月10日、ひたちなか市の笠松運動公園で、「第33回茨城県民駅伝競走大会」が開催されました。

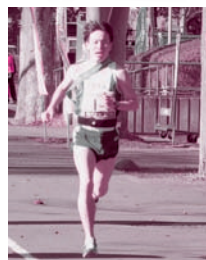
市町村対抗の部に出場した常陸大宮チームは、昨年を上回る16位(25チーム中)という結果を残すことができました。また第7区では、中島公平選手が9分05秒のタイムで区間賞を獲得し、表彰されました。この日は風が強く肌寒い天気でしたが、選手一丸となって走り切りました。



▲選手をサポートしてくれた市陸上競技協会の中嶋理事長(後列右端)と常陸大宮チーム



▲1区を5位でつないだ菊池冬馬選手



▲区間賞を獲得した中島公平選手



▲木村世奈選手(右)

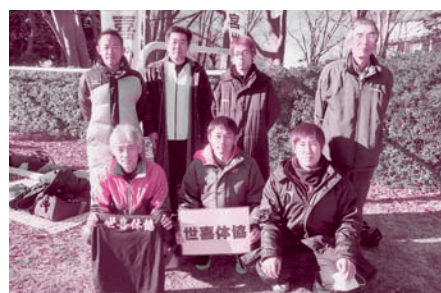
【常陸大宮チーム】

菊池 冬馬(1区)
皆川しずく(2区)
大津 洸輝(3区)
石川 清風(4区)
矢板 慈生(5区)
木村 世奈(6区)
中島 公平(7区)
大津 歩睦
木村 侑希
沼田 淳一
川上 美愛
内藤 佳歩
清水 愛美

<そのほか本市から出場した駅伝チーム>



◀(職域の部20位)
常陸大宮消防Bチーム
(職域の部5位)
常陸大宮消防Aチーム



◀(クラブの部18位)
世喜体協チーム



◀(クラブの部39位)
村石体協チーム



◀(クラブの部29位)
大場体協チーム

☺ 善意をありがとう ☺

敬称略

<社会福祉協議会へ>



社会福祉法人永寿会
ドルフィン
車椅子2台

ひたちなか市埋蔵文化財調査センター所長 鈴木 素行委員（考古部会長）

1973（昭和48）年、中学生の私は大宮町下村田で古墳が発掘されていることを聞きつけ、一人自転車で向かいました。掘り起こされた古墳の石室や住居跡を見て回り、父親から借りたカメラで写真を撮りました。



▲一騎山古墳群（石室）

この大宮工業高等学校の建設に伴う一騎山古墳群の発掘調査は、当時の大宮町としても現在の常陸大宮市にとっても、最初の緊急発掘でした。現在、遺跡は姿を消してしまいましたが、発掘調査の報告書が刊行され、出土した遺物が残されたのがせめてもの救いでした。遺跡を跡形もなく破壊するのではなく、歴史との共存を図る方策の1つが記録なのでしょう。



遺構の様子を撮影する鈴木委員▶

2006（平成18）年、私は仲間と泉坂下遺跡の学術発掘を敢行しました。現地は水田のため、地表面を観察しても遺跡があるとはなかなか気づきません。地権者である菊池榮一さん（故人）が採集し、歴史民俗資料館と地元の小学校に寄贈されていた石器や土器だけが手掛かりでした。発掘の初日に人面付土器が出土し、緊張を強いられることになりましたが、それはまた発掘調査というものの醍醐味を体感させてくれる日々でした。



▲人面付土器「いずみ」発掘の様子

土中から姿を現した人面付土器は、菊池さんにも見ていただきました。調査終了後にいただいた礼状の、「我先祖の掘り起こされた大昔の遺物の様な気がして、感慨深いものがあります」と書かれた一文が印象的でした。もちろん血縁関係などは立証できませんが、同じ土地に生活を営んだ先人への気持ちなのでしょう。保管されていた菊池さんの寄贈資料が、人面付土器「いずみ」を誕生させたのです。

2016（平成28）年、常陸大宮市史編さん委員会の中に考古部会が組織され、活動を開始しました。私自身は微力なので、部会には各時代の専門家に集まってもらいました。過去の発掘調査や未報告の資料を現在の研究水準で公表し、広く長く活用できる市史を目指したいと考えています。まだまだ埋もれた資料があるはずです。この場を借りて、市民の皆さんには情報の提供をお願いします。

■問い合わせ■ 歴史文化振興室 ☎52 - 1450



いっしょにまちづくり



私が受けている授業で、県北地域に移住者を増やすための施策を考える機会がありました。そこで、常陸大宮市に移住し農業の分野で活躍している方々に話を聞き、いくつかの提案をしました。

1つ目は、民泊等で子どもたちに「農業の楽しさ」を知ってもらうこと。2つ目は、農業を学ぶ学生向けのインターンシップを行い、「農業の場としての常陸大宮市」を意識してもらうこと。3つ目は、移住の生活をサポートするコンシェルジュを置き「住みよい、終の住みか」として選んでもらうことです。これらを県主催の「地方創生政策アイデアコンテスト」で発表し、奨励賞を受賞しました。卒業後は地元の栃木県に戻る予定ですが、何らかの形で茨城に関わっていけたらと思っています。



茨城大学人文学部
4年 松本奈津美

環境インフォメーション

ごみの野焼きは禁止です

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、一部の例外を除き「野焼き」は禁止されています。簡易焼却炉・ドラム缶などを用いた焼却も、同様に禁止されています。

違法な廃棄物の焼却には罰則規定があり、違反した場合は、**5年以下の懲役**または**1,000万円以下の罰金**に処されることがあります。

野焼きで焼却されているものの多くは、ごみの日に正しく排出すれば回収できるものです。それらを燃やすと、近隣で洗濯物が汚れるなどの被害が出るほか、有害物質が発生し、悪臭や環境汚染・健康被害の原因にもなります。さらに火災につながる危険もありますので、絶対にやめましょう。必ず決められたごみの日に排出してください。野焼きの現場を発見した場合は、環境課または各総合支所市民福祉課、不法投棄110番までご連絡ください。



<参考：政令で定められている野焼きの例外>

- ①国または地方公共団体がその施設の管理を行うために必要な廃棄物の焼却
- ②震災・風水害・火災・凍霜害その他の災害の予防、応急対策または復旧のために必要な廃棄物の焼却
- ③風俗慣習上または宗教上の行事を行うために必要な廃棄物の焼却
- ④農業・林業または漁業を営むためにやむをえないものとして行われる廃棄物の焼却
- ⑤たき火その他日常生活を営む上で通常行われる廃棄物の焼却であって軽微なもの

※上記の例外に該当する場合でも、生活環境保全上の支障が生じ、苦情があって、例外としない場合がありますのでご注意ください。

■問い合わせ■ ・環境課 環境推進グループ ☎52-1111（内線123）

・各総合支所 市民福祉課

山方 ☎57-2121 美和 ☎58-2111 緒川 ☎56-2111 御前山 ☎55-2111

不法投棄110番
☎0120-536-380

VOL.31

職員のつぶやき～職員リレートーク～

医療保険課の鴨志田裕司です。担当は、主に国民健康保険の資格事務です。昨年の4月に採用されて以来、上司・先輩のアドバイスや市民の方の励ましの言葉もあり、毎日が勉強ですが、充実した日々を過ごしています。

さて今年の干支はとり（酉）です。日々の業務はもちろんのこと、新しい事にも積極的に“とり”組み、人間として成長できるよう努力していきますので、よろしくお願いします。

また皆さんにとって、色“とりどり”の幸せが訪れる一年でありますようお祈りします。

医療保険課の木村智佳です。約1年前、採用内定通知を手に、あふれんばかりの喜びを両親へ報告した高校生の自分を、今でも思い出します。

狭い教室でノートを広げていた頃とは一転、今は主に後期高齢者医療の資格事務を担当しながら、職員としての自覚をもって業務に励んでいます。とはいえまだまだ勉強の身。窓口で市民の方と話したり、上司・先輩から指導や助言をもらったり、それら全てが私の糧となっています。

やってきた新しい年の主役はとりです。3歩で忘れてしまうとりではなく、知識や情報をしっかりとり入れ、大きく成長していこうと思います。



鴨志田さん(左)、木村さん(右)

おたふくかぜについて

おたふくかぜは、ムンプスウイルスによって発症する病気で、正式名称を「流行性耳下腺炎」といいます。流行性耳下腺炎は、唾液や接触によってヒトからヒトへ流行し、名前のとおり耳の下の“耳下腺”やあごの下の“顎下腺”が腫れ、痛みを伴います。潜伏期間は2～3週間程度で、片方または両方の耳下腺腫脹や発熱で発症することが多いですが、4人に1人は症状が出ずに治癒してしまう場合があります（これを不顕性感染といいます）。

健康
通信

常陸大宮済生会病院

小児科

小太刀 豪 先生



<診断・治療>

典型的な症状であれば診察のみで診断できますが、超音波検査や尿検査などを行うと正確に診断できます。さらに確実に診断するには、血液検査を行う必要があります。

この病気は特別な治療法があるわけではなく、基本的に自然治癒する病気です。感染時には鎮痛薬や解熱剤などを使用して、症状を抑えます。症状は約1週間程度で改善しますが、その間は疼痛のため食事が取れず、脱水で入院する人も多くいます。

<合併症>

この病気は、合併症が多いことで有名です。脳周囲にウイルスが侵入してしまう**髄膜炎**は数%の確率で発症するといわれ、5千人に1人は**脳炎**となり、重篤な後遺症や死亡につながる場合もあります。そのほかにも千人に1人が**難聴**となり、これは一生治らないといわれています。思春期以降にかかると**精巣炎**や**卵巣炎**を高い確率で発症し、不妊のリスクになります。また妊娠中に発症すると、**自然流産**の可能性が高くなります。他にも多くの合併症があり、これら为了避免するためには予防が大切になってきます。つまり、『予防接種』が必要になってくるわけです。

<予防>

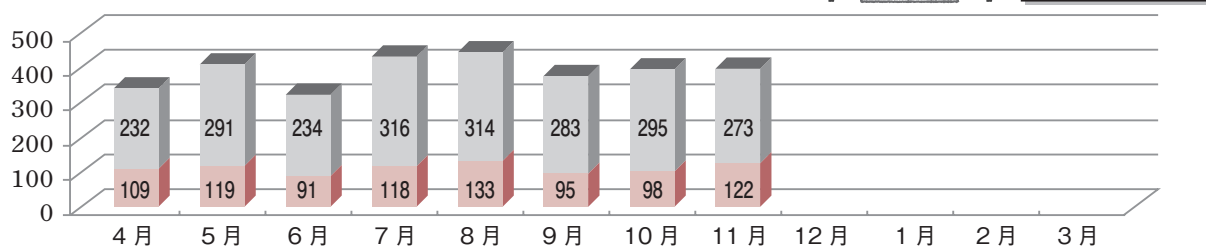
現在日本では、ムンプスワクチンの予防接種を1歳で行うことを推奨しています。また一度でも感染すると確実に免疫ができるため、再度感染することはありません。不顕性感染でも免疫ができます。そのため、感染した人は予防接種の必要はありませんが、本当に感染したかどうかは血液検査で抗体価を調べる必要があります。気になる方は医療機関で相談してみてください。

おたふくかぜは合併症が多く、時に致死的となる疾患です。予防が最も効果的で、脳炎や難聴などの合併症を避けるためにも、予防接種をきちんと行いましょう。

『1歳になったらムンプスワクチン！』

<平成28年度 常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況>

※救急受け入れの人数を月別に表しています。(休日・時間外を含む)



合併の経緯 - 世喜村 -

久慈川の左岸、常陸太田市と接する、現在の大字小貫・照山・辰ノ口・塩原・小倉・富岡は、昭和30年の合併以前は世喜村という一つの村でした。その後、昭和の大合併では大宮町と山方村に分かれ、別の行政体として歩むことになりました。



▲世喜村事蹟簿

◇江戸時代の世喜地域

今から300年前の江戸時代、世喜地域は小貫村（現大字小貫）・押沼村・生井沢村・東谷村・釜額村（以上現大字照山）・辰野口村（現大字辰ノ口）・塩原村（現大字塩原）・小倉村（現大字小倉）・樫村（1749年に富岡村に改める、現大字富岡）という9つの村でした。天保13年には、押沼・生井沢・東谷・釜額の4か村が合併して照山村となりました。久慈川左岸のこの地域は、古代から久慈郡に属していたことから、かつては金砂郷や太田といった地域との交流が盛んでした。また久慈川の流れは恩恵をもたらすとともに、災害ももたらし、たびたび洪水に見舞われる地域でもありました。江戸時代のはじめに甲斐国（山梨県）から移り、旧富岡村に住した永田茂衛門親子は、久慈川本流に辰ノ口江堰を築いたのをはじめ、岩崎江堰や小場江堰（那珂川）を築き、耕地を増大させ、治水・利水に貢献しました。

明治5年（1872年）の大区小区制では、第12大区4小区（のち13大区4小区）、同8年9月に第2大区8小区となりました。明治11年の連合村編成では、辰ノ口村・富岡村・小倉村・塩原村連合と西野内村・照山村・小貫村連合に分かれていましたが、同17年にはこの2つの連合村組織が合併し、7か村連合となりました。

◇世喜村の誕生

明治22年の町村制施行により、7か村連合から西野内村を除く6か村が合併して世喜村となりました。村名の由来は、永田家の功績が世人の喜びとなったことから名付けられました。



▲世喜村役場跡地（塩原地区）



▲世喜村役場前を通る旧道

世喜村は、明治44年（1911年）の人口が3,544人、532戸で、そのうち30%にあたる157戸が養蚕を生業とし、次いで農業が67戸、工業61戸、商業52戸、漁業36戸となっていました（明治44年世喜村事蹟簿）。

役場は、塩原と辰ノ口の境界にあたる字下沢端にありました。今は使われなくなった旧道に面して、西向きに建てられていたようです。合併後は大宮町役場世喜支所として使用されました。

◇分村合併

世喜村は昭和の合併に際し、大宮町・山方町・金郷村ほか4か村（現常陸太田市）などの合併案に対して住民の間で希望が分かれ、住民投票が行われました。この結果、大字富岡・小倉・塩原・辰之口が大宮町に、小貫・照山が山方町に編入されて分村合併することになり、昭和30年3月31日から施行されました。小貫・照山については地理的に山方町に近く、昭和25年に小貫橋が開通したことで利便性がより高まったことを合併の事由として挙げています（山方町役場文書92）。

木村宏さん、野澤満さんにご協力をいただきました。

【参考文献】 塙泉嶺『久慈郡郷土史総論』宗教新聞社 大正13年、茨城県総務部地方課編『茨城県市町村合併史』昭和33年、『大宮町史』昭和33年、『大宮町史』昭和52年、『山方町誌 下巻』昭和57年

文書館 ☎52-0571



火気の手扱いに注意しましょう

寒さの厳しい日が続きます。この時期は空気が乾燥し、火災が発生しやすくなり、暖房器具等の使用も増えるため、出火のリスクが高くなります。冬に起こりやすい火災事例を紹介しますので、火災予防を心がけましょう。

暖房機器

近年、ストーブなどの暖房機器による火災が増えています。そのほとんどが誤った取り扱いによるものです。「電気ストーブをテーブルの下に置き、こたつ代わりに使用」、「電気ストーブの上に干していた洗濯物等が落下」、「石油ストーブを使用中に給油」などが原因です。火災を防ぐためには、これらの実態を知るとともに、取扱説明書などをよく読み、器具の正しい取り扱いや管理をすることが大切です。

ファンヒーターとスプレー缶

ガス・石油ファンヒーターの吹き出し口の近くにスプレー缶を放置すると、高温になって破裂し、火災になることがあります。スプレー缶は、カセットコンロのボンベやヘアスプレー缶、殺虫剤など、家庭の中に多く存在します。吹き出し口付近はもちろんのこと、高温になる場所にはスプレー缶を置かないよう注意してください。

自動車のバッテリー交換

冬の車両火災の出火原因として多いのが「バッテリー」です。気温が低くなるとバッテリーの電圧が低下するので、バッテリー上がりが増加し、交換する機会が多くなります。バッテリーの取り付けが正しく行われずに走行してしまうと、火花が発生し車両火災へと繋がる危険性があります。交換は自分でもできますが、不安があればカーディーラーや自動車整備工場等に依頼しましょう。

放火

総務省消防庁の統計で、毎年出火原因の上位になるのが「放火」です。「放火の疑い」を含めると、年間8,000件以上もの火災が発生しています。対策として、自宅の周囲に雑誌や衣服、わらなど火を着けやすいものを放置せず、可燃ごみは市で定められた日に出すようにしましょう。

収れん火災

光が集まることで起きる「収れん火災」は、1年間に全国でおよそ30件報告されています。虫眼鏡を使って太陽の光を一か所に集めると、その熱で黒い紙などから発火しますが、それと同じ現象が凹面鏡や金魚鉢、水の入ったペットボトル等で起きてしまうのです。冬場は、夏と比べて太陽の位置が低く、光が部屋の奥まで入ってくるため、特に注意が必要です。太陽の光が室内のどこまで入ってくるかをよく確認し、原因になるものを置かないようにしたり、カーテンで光を遮ったりするなどの対策をしましょう。

子どもの火遊び

季節に関係なく常に気をつけたいのが、子どもの火遊びによる火災事故です。多いのがライターを使った火遊びで、火の怖さをよく理解しないまま使用して、事故が起こるケースがほとんどです。子供がいる家庭では、ライター等を子どもの目に触れない場所や手の届かない場所に置くなど、管理体制をしっかりと、火災の怖さや火遊びがいかに危険であることを教えておきましょう。

今月の耳より情報を募集します

3月号の情報を大募集！！

3月号のテーマは、「市内花の見どころ」です。市内の花見スポットなどをご紹介ください。

2月20日（月）までに、郵便またはファックス、Eメールでお送りください。

【問い合わせ】 政策審議室 秘書広聴課
☎52 - 1111（内線312） FAX 53 - 6010
〒319 - 2292 常陸大宮市中富町3135-6
Eメールアドレス
→ hishokou@city.hitachiomiya.lg.jp

QRコードからの投稿はこちら→



ひたまるがゆく

推進大使に任命

e-Tax（イータックス）推進大使に任命されたひたまる。12月21日に太田税務署で、他の市町村キャラクターとともに推進大使の委嘱状を受け取りました。この交付式では、ハッスル黄門や国税庁のイメージキャラクター「イータ君」と一緒にe-TaxをPR。e-Taxを利用することで、税の申告や納税などがインターネットを通じて行うことができ、たいへん便利です。

2月16日から確定申告の受け付けが始まります。納税の義務について改めて考えたひたまるでした。



▲e-TaxをPRするイータ君と



スポーツクラブひたまる25情報局 Vol.29

スポーツクラブひたまる25では、活動拠点としている旧大場小学校の大掃除を昨年12月18日に行いました。また別の日には、地域のバレーボールクラブやスポーツ少年団も体育館の大掃除を行い、きれいな環境で新年を迎えることができました。

ひたまる25は、市民を対象とした人気のピラティスやゴムバンドトレーニングなどのエクササイズ系教室の他、ユニカールやスポーツ吹矢等、種目別のクラブ活動を毎週行っています。また毎月第3土曜日9時から、西部総合公園で「月1ノルディックウォーキングで歩こう会」も実施しています。参加者は随時募集中です。

■問い合わせ■ スポーツクラブひたまる25事務局 ☎55-9666 FAX 55-9667
生涯学習課 生涯学習グループ ☎52-1111 (内線342、343)



▲各団体の清掃の様子

ヤツデ



(ウコギ科ヤツデ属)



御前山ビオトープ周辺の植物等

主に茨城県以南の本州・四国・九州に分布し、人家近くや社寺林などに見られる常緑低木です。高さは1～3mほどになります。この辺りでは、栽培されているものから逸出したようです。葉は枝先に集まって付き、20～40cmと大きく掌状に7～9裂します。花は11～12月頃に枝先に花序を伸ばし、上部の花序には両性花、下部の花序には雄花をつけます。両性花は雄しべが先に熟し、雌しべが成熟する前に雄しべの花粉は散ってしまい、自家受粉を避けています。果実は翌年の4～5月に赤紫褐色に熟します。

(写真・データ提供 御前山ダム環境センター)

常陸大宮市の人口

(1月1日現在・推計常住者)

総人口 41,840人

(男 20,618人 女 21,222人)

世帯数 16,049世帯



QRコードから市のツイッターがご覧になれます

広報 常陸大宮 1月 第148号

発行日 平成29年1月25日

発行/常陸大宮市 編集/秘書広聴課

〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135-6

TEL 0295(52)1111 FAX 0295(53)6010

E-mail hishokou@city.hitachiomiya.lg.jp

URL <http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/>



再生紙と植物油インクを使用しています。